

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



昨年より初雪の遅い今冬ですが、年末から降り続いた雪で一面、見慣れた雪景色となりました。

(大仙市四ツ屋地区)

内 容

CONTENTS

■年頭のあいさつ	2
■第4回定例会	2
■決算審査	4
■一般質問	5
■常任委員会審査	10
■所管事務調査	12
■ご意見への回答	13
■市民の声 ほか	14

年頭のあいさつ



大仙市議会議長

後藤 健

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健康やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、日頃より市議会に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年の秋以降には新型コロナウイルス感染症拡大が一時落ち着きを見せたことで、11月には宮崎県宮崎市との有縁交流事業などが再開されました。

しかし、「大曲の花火」や「刈和野球大会」など、当市が誇るイベントや行事は依然、中止や延期とされ、昨年と同様、新型コロナウイルスに振り回された1年でありました。

この間、罹患^{りん}された皆さまにお見舞い申し上げますとともに、治療や感染拡大防止対策などにご尽力賜りました医療従事者や関係者の皆さまに深く敬意と感謝を申し上げます。

また、市民の皆さまにとりまして不自由な暮らしを余儀なくされるなど、生活や仕事にも大きな影響が及んだことと思います。

しかしながら、月を追うごとにワク

チン接種が進み、治療薬も開発・承認された今、基本的な感染対策やいのちと健康を守る対策を講じつつ、明るい豊かな社会を次世代へ引き継ぐため、社会活動や経済活動を活性化させなければならぬと感じております。

そのために、市議会としても、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた「新しい日常」に転換を図る施策をはじめ、山積する地域の課題や市民ニーズ、時代の変遷を的確に捉えた施策実現のため、「政策提言する議会」を目指し、既得権益や固定観念に縛られることなく、より一層、議会活動の充実を図っていかねばなりません。

昨年9月に改選を迎えた24人の議員が1丸となつて議会活動にまい進してまいりますので、今後とも市民の皆さまのご指導・ご鞭撻^{べんたつ}をお願い申し上げます。

結びに、市民の皆さまにとりまして、本年が健やかで輝かしい1年となりますことを祈念申し上げ、年頭のあいさついたします。

第4回定例会

第4回定例会は、11月26日（金）から12月16日（木）までの21日間の会期で行われました。

本会議1日目は、老松市長の市政報告の後、市当局提出の条例案3件、補正予算案7件を原案可決しました。

また、本会議4日目には、市当局提出の単行案2件、補正予算案3件を原案可決したほか、陳情4件を趣旨採択、意見書案1件を原案可決

しました。

本会議2日目および3日目に行われた一般質問では、10人の議員が市政全般について市当局に質問しました。



QRコードから録画中継
(大仙市議会Youtubeチャンネル)に
アクセスできます。

※第4回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます。

条例案

▼大仙市一般職の職員の給与に関する条例および大仙市会計年度任用職員の給与および費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【賛成多数で可決】

【反対討論】

佐藤 文子 議員（日本共産党）

本条例案は、市の一般職と会計年度任用職員の期末手当を人事院勧告に従い0・15パーセント引き下げるものであり、賃金水準の低い会計年度任用職員など、非常勤職員への打撃は大きい。コロナ禍の公務員労働の奮闘に応えず、賃上げによる経済活性化に背を向けるものであると言わざるを得ない。「期末手当引き下げを行わないこと」「国は非常勤職員に同率の期末・勤勉手当を支給しており、市の会計年度任用職員にも勤勉手当を支給すること」を求め、本件に反対する。

▼大仙市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【全会一致で可決】

▼大仙市長および副市長の給与および旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

【全会一致で可決】

単行案

▼大仙市協和農林水産物直売・食材供給施設（道の駅協和）および米ヶ森公園の指定管理者の指定について

【全会一致で可決】

補正予算

▼令和3年度大仙市一般会計補正予算（第5号）

【賛成多数で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億6839万5千円を追加し、補正後の総額は453億278万3千円となりました。

・人事院勧告を踏まえ、一般職や会計年度任用職員、市長、議員の期末手当を減額補正したほか、所得飲食チケットや学生支援事業など、新型コロナウイルス対策に係る事業費を追加しました。

▼令和3年度大仙市一般会計補正予算（第6・7号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ10億7974万9千円を追加し、補正後の総額は463億8253万2千円となりました。

主なもの

●多目的人工芝グラウンド整備事業費（新設に係る工事費等）

8555万2千円

●仙北健康広場テニスコート増設事業費（増設に係る工事費）

1338万円

●修学旅行キャンセル料支援事業費（小・中学校費）（新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、市内小中学校の修学旅行中止や延期等に係るキャンセル料に対する補助金）

288万7千円

●原油価格高騰対策生活支援事業費（生活困窮世帯への灯油購入費助成）

3516万6千円

●子育て世帯への臨時特別給付金支給事業費

4億477万4千円

●主食用米次期作支援事業費（稲作農家に対する次期作営農支援補助金）

2億7628万3千円

▼令和3年度大仙市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】

▼令和3年度大仙市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】

▼令和3年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】

▼令和3年度大仙市上水道事業会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】

▼令和3年度大仙市簡易水道事業会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】

▼令和3年度大仙市下水道事業会計補正予算（第1号）

【賛成多数で可決】



本会議第1日 起立採決 議案第108号

【反対討論】

佐藤 文子 議員（日本共産党）

令和3年度大仙市一般会計補正予算（第5号）は、PCR検査体制の構築や学生支援など新型コロナウイルス対策は評価するが、大仙市一般職および会計年度任用職員の期末手当引き下げの関連予算を含んでいることから反対するものである。

また、特別・企業会計の補正予算も、大仙市一般職および会計年度任用職員の期末手当引き下げの

関連予算であることから反対である。

陳情

▼安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康を守るために意見書提出を求める陳情

【趣旨採択】

▼精神保健福祉の改善について国に意見書提出を求める陳情

【趣旨採択】

▼安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康をまもることを国に求める意見書提出の陳情

【趣旨採択】

▼介護をする人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度への転換を求める国への意見書提出の陳情

【趣旨採択】

意見書案

▼人工透析を要する要介護高齢者が一般の要介護高齢者同様、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）に入居できるよう介護保険制度の改定を求める意見書

【全会一致で可決】

こちらから
本会議資料
（大仙市ホームページの
議会のページ）
にアクセス
できます。



第5回臨時会

令和2年度

決算を認定！



11月4日に招集された第5回臨時会で、令和2年度一般会計および各特別会計の決算認定が上程され、決算特別委員会が設置されました。その後、本会議休会中の11月4日から5日にかけて、三つの分科会で、その所管部分の審査が行われました。

◆決算特別委員長の審査講評（概要）

①令和2年度は、新型コロナウイルスに翻弄され、社会や経済の先行きが見えない中、行政運営、予算執行に大変苦労しながらも、手探りながらスピード感をもって対処したことを評価したい。

②新型コロナウイルス感染症対策の実施策の内容はおおむね良好と思うが、一部に多額の不用額を生じたもの、途中予算変更が行われたものの、制



本会議にて審査講評を述べる
金谷決算特別委員長

度設計に検討を要するものも見受けられた。やむを得ない面もあるが、今回の経験が無駄にすることなく、新型コロナウイルスと共存しなければなら

ないであろう今後に生かされたい。

③全ての分野、政策に共通して、いずれの事業もPDCAサイクルをしつかりと回せるよう、計画時点から現状把握や目標設定の数値化、それに合った事業を展開し、事業成果と評価を行い、決算を見える化できるように図りたい。

◆各分科会の主な審査意見（各意見の中から一部概要を掲載しています）

総務企画分科会

選挙管理執行経費に関連して、投票率が低迷している状況にあることから、市民の利便性を考慮し、期日前投票の充実化を模索されたい。また、施設入所者をはじめ、投票に訪れるのが困難な方もいることから、不在者投票という制度について、さらなる周知を図り、引き続き有権者の利便性確保と投票率向上の策を講じられたい。

教育厚生分科会

健康まちづくり推進事業費の「健康ポイント」は健康長寿のまちづくりの

柱だと考える。今後、さらに幅広く参加者を集め、事業を継続していくためには、そのインセンティブの持たせ方が重要である。本事業の推進は、健康に結び付き、医療費抑制にもつながることから、参加者のデータを分析し、市民へ情報提供するなどして事業の周知を進めるとともに、インセンティブについては、参加者の目標設定を明確にするため、活動量の実態に基づき贈呈するなどして参加拡大に努められたい。

産業建設分科会

新型コロナウイルス対策の緊急支援事業として実施された、農業経営力強化緊急支援事業費について、農業者の高齢化や天候等により今後も収益力の低下が懸念されるので、さらなる経営力強化につながるよう、必要な支援の継続を実施されたい。

【反対討論】

佐藤 文子 議員（日本共産党）

令和2年度大仙市一般会計予算案の審議で、マイナンバー制度は蓄積された個人情報保護の脆弱性、また、国による徴税力強化や社会保障費削減などが危惧されることから、廃止すべきであるとしてマイナンバー制度推進予算である同予算案に反対した。本決算はその執行であり、認めることはできない。

第4回定例会賛否一覧

議案等名	会派・議員名	議決結果	大地の会							だいせんの会					新政会				公明党		市民クラブ	日本共産党				
			鎌田正	金谷道男	大山利吉	佐藤育男	後藤健	山谷喜元	安達成年	青柳友哉	高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	石塚柏	橋村誠	高橋徳久	戸嶋貴美子	渡邊秀俊	小松栄治	小笠原昌作	橋本琢史	本間輝男	秩父博樹	挽野利恵	佐藤隆盛	佐藤文子
議案第104号 大仙市一般職の職員の給与に関する条例及び大仙市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について		原案可決	○	○	欠	○	議長	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
議案第107号 大仙市一般会計補正予算（第5号）		原案可決	○	○	欠	○	議長	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
議案第108号 令和3年度大仙市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）～議案第113号 令和3年度大仙市下水道事業会計補正予算（第1号）※3ページ参照		原案可決	○	○	欠	○	議長	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

賛成者は○、反対者は●、欠席者は「欠」とします。議長は採決に加わりません。



佐藤 隆盛 議員

(市民クラブ)

**Q** 米価下落への支援策は**A** 10アール当たり
3千円を給付したい

質問 米価下落は、収入が大幅に減となる米作農家にとって大問題である。農業を基幹産業と位置付ける大仙市として、減収する農家へ市独自の給付支援を望むが。

市長 今年度の主食米作付面積30アール以上でJ A等への販売実績がある市内農業者に対し、次期作に向けた水稻種子等諸材料の購入支援として、10アール当たり3千円を給付する。交付は2月までに完了したい。

◆市と商工会議所の関わり方について

質問 令和2年「大曲の花火」大会時、栈敷席の3万円に、「なぜこんなに高くなったのか」と市民から声があった。どこで価格を定めているのか。

経済産業部長 栈敷席の価格は、大会運営に係る

経費を考慮し、傾斜配分して実行委員会で決定している。

質問 コロナ禍で、無観客での花火の打ち上げが行われているが、市の支援等により行ったものはあるか。

経済産業部長 企業や任意団体、個人などさまざまな方の希望により行われたもののほか、市の支援等により行ったものがある。

質問 商工会議所による（仮称）はなびタワーの建設に、市民から、その経済効果や費用対効果に懸念の声を聴くことが増えている。「愚行のシンボルタワー」にならないか心配している市民もいる中、商工会議所から情報提供や要望などがあったのか。また、市としては、同事業をどのように考えているのか。

経済産業部長 本年6月、整備について花火産業構想アクションプランに加えたいと商工会議所から提案があり、構想策定主体4団体が参加する花火産業構想推進プロジェクト会議で承認されたものである。具体的な整備計画やスケジュールは商工会議所で行っている。

市民から反対意見があることは、市としても関係する会議等に参加した際、伝えてまいりたい。



石塚 柏 議員

(だいせんの会)

**Q** 消雪組合への補助額を
再検討しては**A** 個々の実状を見て検討
したい

質問 昭和49年、大曲地域の花館柳町に初めて消雪パイプが設置され、消融雪道路ができた。現在、消雪組合は294組合が設立され、流雪溝・消雪道路の総延長は137キロメートルとなった。消雪組合に加入している世帯は3,764世帯となり、大きな社会インフラとなっている。市は、この消融雪道路と消雪組合をどのように評価されているのか。

建設部長 消雪組合は、生活道路や住宅が密集している幹線道路の消融雪施設の維持管理を担っており、市民の除雪作業からの解放と市の除雪路線の縮減に貢献されていると考えている。

質問 消雪組合にアンケートを差し上げたところ、その51パーセントは「老朽化した施設の更

新は、現状では困難」と回答されている。理由は、地下水位の低下でボーリングを深くするために工事費が増大することと、組合員の減少と高齢化により費用を負担する力が弱まってきたことがある。現在の補助金の額を再検討できないか。

建設部長 市では、平成27年度に補助金の増額を行った。今年度も、消融雪施設の更新に必要な経過期間を20年から10年に短縮したほか、県から移管された施設に係る補助金についても増額したところである。

質問 県から移管されたものは、10組合程度であったと記憶しているが、その他、大多数の組合への補助も検討していくという認識でいいか。

建設部長 消雪設備の老朽化は、大仙市道路除雪基本計画の中でも、深刻な課題として重点的に取り組んでいくこととしている。

市長 ご指摘の点は、第2次雪対策総合計画策定の際にも認識しており、消雪組合の実状を個々に伺いながら見直していきたい。



秩父 博樹 議員
(公明党)



Q どう少子化に歯止めをかけるのか

A 若者や子育て世帯の目線を加えていく

質問 今後、どう少子化に歯止めをかけていくのか伺う。

西山副市長 少子化を含めた人口減少の抑制を最大の課題と捉え、「大仙市総合計画」および「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の下、地域全体で子育てを応援する仕組みのさらなる充実や、出会いから子育てまで切れ目のない支援制度の構築、子育てと仕事を両立できる環境づくりなどに取り組んでいる。

令和元年度には、こうした取り組みを加速するため「子育て支援制度等検討会議」を立ち上げ、既存制度の効果検証を行うとともに、新たな施策として結婚祝い金や結婚新生活支援事業のほか、産後ケア事業、子育て応援手当金、奨学金返還助

成制度の創設に加え、放課後児童クラブの利用料金引き下げや子どもの医療費助成の拡充など、ライフステージに応じた支援制度の大幅な強化・拡充を図っている。

これまでも、危機感を持って少子化対策に当たってきたが、コロナ禍が少子化や婚姻数の減少に拍車を掛けている現実をしっかりと受け止め、あらゆる施策に若者や子育て世帯の目線を加えていく必要があると考えている。

地域全体で結婚を希望する若者や子育て世帯を切れ目なく支援し、結婚して子どもを産み、育てていくことに憂いのない環境の創造に向け、これまで以上に強い決意と覚悟で、重点的かつ集中的に取り組んでいく。

○この他、一人暮らしの高齢者の見守りについて、質問しました。



安達 成年 議員
(大地の会)



Q 農業者への支援策は

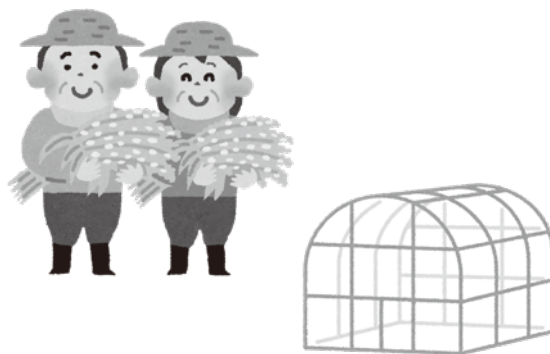
A 国の事業等と並行して進めたい

質問 毎年、米価市場に左右されないために、経営所得安定対策として、収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）に市独自の制度は構築できないか。

農林部長 大仙市農業再生協議会では、国の水田リノベーション事業等を活用し、セーフティネットへの加入を進め、農業者への所得確保に努めてきたところであり、主食用米作付経営体の約27パーセント、作付面積の66パーセントをカバーしているが、さらなる加入促進が必要と考える。独自の補償制度の構築については難しい現状にあり、国の施策の効果を見極めながら、生産の目安の提示や、国事業の積極的な活用促進を図り、持続可能な地域農業を推進していく。

質問 施設園芸農業者における燃油価格高騰対策として、市独自のナラシ対策の「燃油部門（仮称）」を制度化できないか。

農林部長 市では国の施設園芸セーフティネット構築事業を進めており、県と連携し、本制度の活用に向け、直接訪問による説明やチラシの郵送等により周知を図っている。J A秋田おばこ等関係機関と連携し、制度周知や農業夢プラン応援事業等の活用により、省エネ型施設園芸への転換を促進することで、燃油価格の動向に影響されにくい農業経営を推進したい。今後も国の動向を注視し、県と連携を図りながら対応を検討していく。





古谷 武美 議員

(だいせんの会)



Q 大曲駅西口の整備は

A 重要な課題であり、積極的に関与していく

質問 大曲駅西口を見回した時に、お客様は「寂れた町 大仙市」と感じるのではないかと。空き地を含めた西口整備を行い、にぎわいのあるまちづくりを実施し、若者が出て行かないまち、若者が戻ってくるまちをつくっては。

市長 駅前交番横の土地の所有者から、市と大曲商工会議所と共同で利活用をしたいとの申し出があり、三社で協議してきた。分譲マンションを核とし商業機能や行政機能を加えるなどアイデアをまとめ、コンサルティングにより事業化の可能性を調査することとなっている。コンサルティング費用は市も応分の負担をするが、それ以降の事業化は民間事業者による整備と考える。



青柳 友哉 議員

(大地の会)



Q DX推進に外部の人材を採用しては

A 新たに採用区分を設けた

質問 デジタル技術を活用した行政サービス改革(DX)を担う職員として、即戦力となる人材を外部から採用すべきでは。

総務部長 市は、人口減少等による地域の課題解決や、地域価値・生活の質を維持・向上していくためにDXを推進しており、専門知識やスキルを持った人材を必要としている。今年度の職員採用試験では「ICT・デジタル」区分を新設したが、応募者はゼロであった。現在、国の地方創生人材支援制度を活用し、デジタル人材の派遣を申請中である。

質問 常勤職員として募集すると応募者が少ない可能性がある。副業や兼業の人材を想定した非常勤職員の公募もすべきでは。

◆大仙市の宿泊施設について

質問 昨年から修学旅行での花火モニターツアーを実施し、今年は7校、総勢564名が訪れているが、市内に宿泊したのは1校、20名だけと聞く。市内に宿泊していただき、地域経済活性化につなげるために「修学旅行生の宿泊先確保」について伺う。

経済産業部長 市内に宿泊していないのは、宿泊施設の受け入れ可能人数の制限や翌日の行程との兼ね合いのほか、大浴場や朝食に対応できる宴会場の利用を希望と伺っている。宿泊していない4校は市内の宴会施設を夕食会場として利用し、この点では一定の経済効果が得られたと思う。

質問 大曲商工会議所が計画している花火師の宿泊先は。

経済産業部長 本年6月に花火師の宿泊施設および管理棟について、花火産業構想アクションプランに新規事業として承認され、概要を伺っている。整備後の活用方法は修学旅行誘致での活用を含め、アイデアを出しながらより大きな成果を得るよう、共に取り組んでいく。

総務部長 柔軟な働き方を認めて非常勤職員を募集する取り組みも、大変効果的であると思っており、前向きに検討を進めたい。

◆子どもたちのマスク着用について

質問 国が定める保育所等での新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインでは、保育所等で子どもに一律にマスクを着用することは求めているが、市民から「子どもが通う保育施設からマスク着用のお願いがあり、従わざるを得なかった」との声があった。現状を伺う。

健康福祉部長 国のガイドラインを踏まえた大仙市版の感染対策マニュアルを作成・周知し、保育施設での感染予防対策の徹底をお願いしている。市内の全保育施設で、園児へのマスク着用の強制はされていないが、活動内容等に合わせたマスクの着用は園ごとの判断である。園児への対応が過度にならないよう指導を行い、運営法人等と連携を深め、園児一人一人の健康と安全に配慮した感染防止に取り組んでいく。

※DX…デジタルトランスフォーメーションの略



金谷 道男 議員
(大地の会)



Q 学校統合の方向性は

A 大仙ビジョンと新たな視点で進めたい

質問 学校統合の評価と今後の方向性は。

教育長 学校数の減少や教育面で成果があった。今後は「新しい時代の学校教室大仙ビジョン」を基本に新たな視点も入れながら進めたい。

質問 新しい時代の学校教育大仙ビジョンによる学校統合をどう評価しているのか。

教育長 学校統合は学校数の減少や、授業・学校行事等での多様な学びの実現、児童生徒の切磋琢磨が意欲やたくましさの醸成につながっていることなどから、一定の成果が上がっていると考えている。

質問 太田地域をはじめ統合が未定の地域も、早急に次期適正化計画を立てて進むべきと思うが。

教育長 課題は地域の理解を得ることや通学の安全、統合校でも適正規模の維持が困難なこと。今

後の学校統合の進め方は、大仙ビジョンの内容を基本に、学校は地域コミュニティの中心的役割もあるので、地域住民の要望や意向を踏まえながら進めたい。太田地域は今年度予定しているアンケートの結果も踏まえて具体的検討に入りたい。学校規模の適正化はこれまでの手法を踏まえつつ、ICTを活用した学校の在り方も研究し、新たな学校づくりも視野に進めたい。

質問 学校統合は子どものための第一であるが、地域の光でもある。今後の学校統合に当たっては小中一貫校、通学区域の見直し、通学方法の検討、放課後児童クラブや部活動等の対応も考えるとともに、人口減少対策にも資するような広い視点をもって早急に取り組んでほしい。

教育長 今年度実施予定のアンケート結果を踏まえてのこととなるが、学校統合を具体化する時期と思う。小中連携やタブレットを活用したより効果的な教育の在り方や校舎、通学方法、通学区域なども含めた実現可能な形を作り、地域の方々と連携しながら進めたい。



山谷 喜元 議員
(大地の会)



Q 地域の元気づくりについて

A 令和4年度から地域拠点の機能向上を図っていく

質問 これまでの地域活性化の成果と課題について、どのような認識を持っているのか。

企画部長 地域協議会が設置され、地域予算を活用して地域活性化に取り組んできた。地域活性化推進室を設置して、「地域の魅力再発見事業」を実施し、地域コミュニティの活性化が図られている。一方、活性化を進める上で拠点となるべき施設の改修など、新たな課題も生まれてきている。

質問 今後の地域全体の元気づくりにどのような方策で取り組むのか。

企画部長 地域拠点の機能向上を図る方策は、協働の担い手となる地域住民や団体の方々と議論をし、拠点となる施設等を見定め、活性化構想を策定していく。地域全体で課題についての共通認識を持ち、解決策に取り組むことで、それぞれの地

域の活性化を図り、さらには、市全体の活性化に結び付けていく。

◆成長戦略について

質問 「SDGs（エスディー・ジーズ）未来都市」選定に向けて取り組んでほしいが、市としての具体的な取り組みについての考えは。

佐藤副市長 SDGsは、2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする国際社会全体の開発目標である。本市の直面する人口減少などの諸課題への対応や、持続可能なまちづくりに、SDGsの視点が、地域課題解決の加速化を期待できることから「大仙市SDGs推進方針」の下、積極的に取り組みを進めていく。丁寧な周知に努めるとともに、来年度の「SDGs未来都市」選定にチャレンジしていきたい。本市に眠る多くの可能性を探りながら、そのポテンシャルを最大限に引き出し、新たな価値を生み出していく取り組みを推進し、持続的に発展が可能な都市の実現につなげていく。

○この他、DX（デジタルトランスフォーメーション）に代表される、デジタル変革について質問しました。



佐藤 文子 議員

(日本共産党)



Q

学校生活支援員の処遇改善を県に求めています

A

引き続き、働き掛けたい

質問 要支援児童・生徒数が増加する一方、学校生活支援員は平成28年以降、60人前後と横ばいである。専門的知識を持って継続的に関わる教育者であり、その確保と処遇について県に保障を求めています。

教育長 高度な専門性を求められてはいないが、個別最適な支援を行うため、教員免許や福祉に関する資格の所有者が望ましい。支援員の確保は、今のところ大きな課題はないが、処遇については支援員の配置に関する要望が高いことや、会計年度任用職員制度への移行により財政的負担が大きくなっている。支援員の配置も含めた特別支援教育に係る事業の充実を、県教育委員会に要望しており、今後も機会を捉えて働き掛けていく。



挽野 利恵 議員

(公明党)



Q

子宮頸がん予防ワクチンの情報提供は

A

個別に通知を送付したい

質問 令和4年4月より子宮頸がん予防ワクチン接種の積極的勧奨が再開された場合、また、対象年齢以外への救済制度「キャッチアップ接種」が導入された場合、その情報提供はどうするのか。

健康福祉部長 定期接種の対象年齢である小学6年生から高校1年生相当の女子の中で、これまでワクチンを接種していない方を対象に、令和4年度のできるだけ早い時期に、予診票を同封した積極的勧奨通知を送付したい。

対象年齢以外への情報提供の方法は、ワクチン未接種者への積極的勧奨者と同様に、令和4年度に個別通知配布を検討している。具体的な制度概要がまだ示されていないが、国の動向を注視し、速やかに通知発送できるよう準備をしていく。

◇国民健康保険税の減税について

質問 新型コロナウイルス感染症拡大による営業自粛や米価下落で収入が大幅減少する中、国民健康保険税が一層、被保険者の暮らしを圧迫している。国保財政調整基金を活用し、所得割・平等割を減税するとともに、子どもの均等割の軽減について、18歳年度末まで実施するように求めるが。

市民部長 令和2年度の医療費は、新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えの影響で減少したが、今年度は増加に転じ、県の試算によると来年の国保事業納付金は増額となる見込みである。また本市の財政調整基金は、1人当たりの基金額が県内で最も低い方に位置しており、余裕のある状況ではない。将来的に税率引き上げ等によって被保険者の負担増とならないよう、今は税率引き下げにより安定した財政運営に努めたい。子どもの均等割軽減は国の制度としての実施が望ましく、引き続き市長会等を通じて国に働き掛けていく。

◆通学用自転車ヘルメットについて

質問 耐用年数を過ぎたヘルメットの着用状況は。

教育委員会事務局長 新規にヘルメットを購入した生徒は把握しているが、それ以外の生徒のヘルメットが耐用年数を過ぎているかどうかは把握していなかった。生徒に対して、引き続きヘルメットの正しい取り扱いや着用の仕方を含めた安全指導の徹底を図るとともに、各家庭に対して、ヘルメットの耐用年数の把握や安全性の確保を呼び掛けていく。

質問 購入制度の拡充は。

教育委員会事務局長 保護者の負担が、より軽減されるような補助制度の在り方について検討していく。

○この他、子育て世帯への臨時特別給付金事業について、質問しました。

教育厚生常任委員会

補正予算案6件、陳情4件、意見書案1件を審査し、次のような質疑がありました。

●令和3年度大仙市一般会計補正予算(第6号) 地域福祉振興基金積立金

【問】新型コロナウイルス感染症により中止となった事業に充てられていた一般財源の残余分を積み立てるとのことだが、その分を新型コロナウイルス対策の事業へと振り替えては。

【答】新型コロナウイルス対策の各事業は、国の交付金などが財源であり、この残余分は、今後の将来的な子育て支援制度の拡充等に活用するため積み立てる。

修学旅行キャンセル料支援事業費

(小中学校費)

【問】未実施の小中学校6校以外は、予定どおり修学旅行を行ったのか。

【答】6校以外の小学校18校、中学校6校の計24校は予定どおり修学旅行を実施できた。

●令和3年度大仙市一般会計補正予算(第7号) 子育て世帯への臨時特別給付金支給事業費

【問】1回目が現金、2回目がクーポンでの支給となると経費が掛かる。現金給付できないか。

【答】12月初めに国から示された資料では、実情に応じて現金給付できるとしており、具体例は後ほど示されるとのことであった。

◇陳情第1号「安心・安全の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康を守るため国に意見書提出を求める陳情」から陳情第4号「介護をする人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度への転換を求める国への意見書提出の陳情」までの4件については、願意は認めるが、昨年も同じような内容の陳情が提出・採択されており、状況も大きく変化していないことから、全て「趣旨採択すべきもの」としました。 ※3ページ参照

総務企画常任委員会

条例案3件、単行案1件、補正予算案2件を審査し、次のような質疑がありました。

●大仙市一般職の職員の給与に関する条例および大仙市会計年度任用職員の給与および費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【問】市職員の12月期末手当の支給割合について、引き下げ率が周辺自治体と異なっている。この引き下げ率は自治体ごとの判断で決めているのか。

【答】自治体ごとに準拠する勧告が異なっている。当市では人事院勧告を踏まえ、本案の引き下げ率としている。

●令和3年度大仙市一般会計補正予算(第6号) 空き家等対策費

【問】空き家解体費の補助金が増になったとのことだが、その対象物件は当初から空き家として登録されていたものか。

【答】基本的に登録されていた物件であるが、毎年12月に実施する調査により、今年度、新規に追加された物件もある。

選挙執行経費

【問】ポスターの掲示板は件数が多いが、設置箇所の確認はしっかり行っているのか。

【答】設置箇所は従前から決まっているもので、地権者にも確認を取った上で設置している。

交流事業費

【問】コロナ禍において、交流事業をどのように実施しているのか。

【答】当初予定していた24件の事業のうち、19事業を延期、5事業をオンライン等で開催している。年明けにもオンライン等で実施する事業が予定されている。

コミュニティ助成事業費

【問】コミュニティ助成事業は、その申請に当たりハードルが高い上、周知も不足しているのでは。

【答】毎年、市の広報を使って募集している。申請までに時間が少ないことから、申請団体と相談し、手続きを支援しながら事業を進めていきたい。

正副委員長が 選出されました

次の2会議において、正副委員長が選出されました。

◆議員定数等検討会議

※適正な議員定数・議員報酬の検討を行います。

委員長 挽野 利恵

副委員長 橋本 琢史

(任期 令和3年11月11日～)

◆議会改革推進会議

※議会基本条例の運用・啓発・見直しや、議会改革推進の検証に関する事項について調査・審議を行います。

委員長 金谷 道男

副委員長 小笠原昌作

(任期 令和3年12月8日～)



議長交際費 (10月1日～12月31日)

項目		件数	金額
予算額			850,000円
既支出額 (4～9月)		6件	38,043円
支出額		10件	63,860円
内訳	弔慰	0件	0円
	慶祝	5件	24,370円
	協賛	5件	39,490円
予算残額			748,097円

※令和2年度の支出状況を踏まえ、令和3年度より予算額を900,000円から850,000円に減額しています。

産業建設常任委員会

単行案1件、補正予算案7件を審査し、次のような質疑がありました。

●令和3年度大仙市一般会計補正予算(第6号) 多目的人工芝グラウンド整備事業費

【問】人工芝の敷設工事は特殊な工法だと思うが、これは地元業者でできる工事か。

【答】面積は大きいですが、市内に実績のある業者もあり、現時点では可能と考える。

●令和3年度大仙市企業団地整備事業特別会計補正予算(第1号)

【問】企業団地は、企業からの要望があれば区画を分割して売り渡せるか。

【答】第1期で造成した土地は、分割して売り渡すことは考えていない。第2期以降の造成工事に向けては、オーダーメイド型として、企業側の要望を聞きながら希望に応じた整備をしていきたい。

●令和3年度大仙市一般会計補正予算(第7号) 主食用米次期作支援事業費(新型コロナウイルス対策)

【問】事業対象は、JA等の集荷団体に対して出荷・販売した農家が対象とのことだが、独自販路で販売した農家は対象にできないのか。

【答】JA等集荷団体に出荷した委託販売農家については、自らの責任によらない米価下落であったため、本事業の対象とした。独自販売農家は、JA概算金の下落等の市場動向により販売額下落はあったと思われるが、販売額を独自に設定できるため、事業対象外とした。

【問】今年度は主食用米を作付けし、来年度は農業法人等の担い手へ委託する農家は対象とならないのか。

【答】令和3年7月1日時点の、食用米作付けを積算ベースとしている。農業法人等の担い手に委託する場合でも、引き続き需要に応じた米生産が見込まれる場合、今年度作付けした農家を対象とする。

産業建設常任委員会からの所管事務調査の報告

今年の種苗交換会が大仙市開催となったことを受け、11月1日（月）に所管事務調査として、能代市で開催された第144回秋田県種苗交換会を視察してきました。

開催期間は10月29日から11月4日までの7日間で、昨年、5日間の日程で行われた横手市開催より2日長い開催でした。

主会場となった能代市総合体育館では、野菜・果物・米・花・加工品など、農家から出品された特産品が多数並んでいました。中でも「知事賞」「農林水産大臣賞」等を受賞した特産品には、多くの人々が見入っていました。

また、協賛第2会場では農機具展示会や物産販売展、墓石仏壇展が開催されており、こちらも多数の人々でにぎわっていました。

今回の種苗交換会は、コロナ禍であることを鑑み、本来よりも規模を縮小しての開催だったようで、残念ながら、本来の事業規模を視察することはできませんでした。しかし、感染予防に配慮されながら実施されてい

る様子を主催側の姿勢に見ることができました。

今年、大仙市で開催する種苗交換会は、平成16年に旧大曲市での開催以来となり、大仙市として初めての開催となります。

今後、事務局を立ち上げ、開催準備に入ることになりますが、今年こそはコロナが落ち着き、以前のように盛大に開催できるよう期待したいと思います。

（産業建設常任委員会

委員長 高橋 徳久 記）



3月定例会のお知らせ

2月24日(木)

本会議第1日
（施政方針演説、議案等上程）

3月7日(月)

本会議第2日（一般質問）

3月8日(火)

本会議第3日（一般質問）

3月9日(水)

本会議第4日（当初予算質疑、議案質疑、委員会付託）

3月10日(木)・11日(金)・14日(月)

常任委員会審査

3月18日(金)

本会議第5日（委員長報告、質疑、討論、表決）

※ 現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、市議会ホームページでご案内しています。

※ 3月定例会で審査される請願・陳情は、2月15日（火）まで提出されたものです。それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

議会のうごき

10月

4日 議員全員協議会
5日 会派代表者会議
6日 会派代表者会議
7日 第4回臨時会
13日 議会運営委員会
会派代表者会議
14日 新議員研修会
広報広聴常任委員会
20日 新議員研修会
22日 新議員研修会
28日 議会運営委員会

11日 議員説明会
議員定数等検討会議
19日 議会運営委員会
26日 第4回定例会（第1日）
各常任委員会審査
議員全員協議会
議員互助会、各議員連盟総会
広報広聴常任委員会

12月

7日 第4回定例会（第2日）
議会運営委員会
議員定数等検討会議
8日 議会改革推進会議
第4回定例会（第3日）
議員全員協議会
9日 各常任委員会審査
教育厚生常任委員会協議会
産業建設常任委員会協議会
14日 議会運営委員会
16日 第4回定例会（第4日）
会派代表者会議
議員研修会
23日 広報広聴常任委員会

11月

1日 産業建設常任委員会
所管事務調査
4日 第5回臨時会（第1日）
決算特別委員会 全体
会・各分科会審査
5日 決算特別委員会 各分
科会審査
10日 議会運営委員会
11日 会派代表者会議
第5回臨時会（第2日）
決算特別委員会 全体会

第66号「皆さまの声をお寄せください」への回答

前号にお寄せいただいたご意見と市当局の回答をご紹介します。
(一部要約)

ご意見 気候変動等による災害が頻発している中、その備えとしてSDGsの項目の一つ、「安全な水とトイレ」の確保は最重要と考える。市としてどこまで考慮されているのか知りたい。〔西仙北地域・50代〕

回答 水は災害時への備蓄と合わせ、給水車や上水道施設の発電機などを整備しています。また、トイレは避難所用にトイレ袋などを備蓄するほか、マンホールトイレなどを整備予定です。

貴重なお声をいただきありがとうございます
ございました。



皆さまの声をお寄せください

大仙市議会では、皆さまからの声を募集いたします。

募集期間

令和4年2月1日(火)～令和4年2月28日(月)

提出方法

- 次の①～③のいずれかの方法により提出してください。
様式の定めはありません。ご自由に記載してください。
- ①郵送 ・宛先：〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号
大仙市議会事務局あて
- ②ファックス ・番号：0187-62-8822(議会事務局専用ファックス)
- ③メール ・アドレス：gikai@city.daisen.lg.jp

こちらのQRコードから
メールを作成いただけます。
※対応のメールアプリが必要です。



必要記載事項

- ・住所・氏名および年齢を必ず記載してください。
- ・郵送の場合は封筒の外側に、ファックス・メールの場合はタイトルに、「大仙市議会への声」と明記してください。

- 注1 いただいたご意見の要旨を、居住地、年代を示した上で議会だよりやホームページで紹介させていただく場合があります。
(掲載例) 「大曲地域・40代」「中仙地域・50代」
- 注2 お電話による受け付けは行いませんので、ご了承ください。
- 注3 いただいたご意見は、大仙市議会への貴重な「声」として、プライバシーに配慮しながら、全議員へ閲覧させていただきます。

大仙市議会政治倫理条例に基づく関係私企業一覧

令和3年11月11日 現在

議席番号	氏名	職業	本人または議員の配偶者、2親等以内の血族もしくは同居の親族が実質的に経営に携わっている企業	議席番号	氏名	職業	本人または議員の配偶者、2親等以内の血族もしくは同居の親族が実質的に経営に携わっている企業
1	佐藤 芳雄	会社員・会社役員・農業	・(株)神岡ふるさと振興公社【役員】	13	小松 栄治	農業・賃貸業	・丸栄【経営主】 ・(有)小松塗装工芸社【血族経営】 ・西仙北塗装【血族経営】
2	戸嶋貴美子	園芸農業・自営業	・メディカルハーブ専門店 自然栽培カフェCocoto【経営主】	14	本間 輝男	農業	
3	佐藤 文子	政党役員		15	佐藤 育男	会社役員	・仙北水力発電(株)【経営主】 ・物産中仙(株)【役員】
4	佐藤 隆盛	農業		16	山谷 喜元	農業	
5	挽野 利恵	会社役員	・(株)挽野板金【役員・配偶者経営】	17	石塚 柏	経営 コンサルタント業	・経営情報システム【代表】
6	秩父 博樹	会社員		18	高橋 敏英	会社役員	・(株)クリエート【経営主】 ・(株)YTM【血族経営】
7	青柳 友哉	会社役員	・(株)ヘパナ【経営主・配偶者役員】 ・あきたITエンジニアリング【経営主】	19	橋村 誠	農業	
8	安達 成年	農業		20	渡邊 秀俊	農業	
9	高橋 徳久	神職	・宗教法人諏訪神社【経営主・宮司】	21	金谷 道男	商業	・金谷呉服店【経営主】
10	古谷 武美	会社役員	・(株)フルヤモールド【経営主・配偶者役員】 ・(有)エフ・エム・デー【経営主・配偶者役員】	22	大山 利吉	農業	
11	橋本 琢史	農業		23	鎌田 正	農業	
12	小笠原昌作	農業		24	後藤 健	無職	

市民の声

神岡地域各町内会長の集まり（自治組織連絡協議会・27名の組織）の毎年の事業計画で、市議会の本会議を傍聴しています。今般、12月7日の午前、16名の自治会長が参加しました。前に何回か傍聴した会長もいましたが、初めての人もおり、少し緊張気味の雰囲気もありました。しかし、議員の方の質問が、情報も多く県外にまで及ぶなど、以

前からの調査と、市内の情報を日常的に観察している結果と感心しました。

また、市側の答えも丁寧で、質問を聞き、新しい知識になったと答えていました。

一方で、傍聴に行ったメンバーの中には、「質問が中身のみ、『問い』と『答え』の方がすっきりとして分かりやすかったかな」といった者もありました。

（神岡地域・70代男性）



議員研修会を開催しました

12月16日、議員研修会を開催し、全議員ならびに市当局職員が参加しました。

研修会では、株式会社SAIKO 代表取締役の菅原彩子氏より「倫理の向上について」という演題で講演をいただきました。



編集後記

新年おめでとうございます。

いつもだいせん市議会だよりをご覧ください、ありがとうございます。

本号より、各ページの見出しを見開き両端に配置してみました、いづらか読みやすくなりましたでしょうか。今後も委員一同、皆さまが読みやすい紙面づくりに努めてまいります。

さて、百年前の1922年（大正11年）2月11日は『グリコ』が発売された日です。おなじみのこのお菓子は、キャラメルにカキから採取したグリコーゲンを入れた栄養菓子で、創業者の江崎利一氏が、病氣のご子息にカキエキスを飲ませたところ、回復に向かったことが開発のきっかけだそうです。その後、「ひとつづ300メートル」のキャッチコピーや、子どもが楽しめる「おまけ」を付けたことにより商品はヒット。両手を上げたゴールインマークと赤いパッケージは、マイナーチェンジを経た今も、変わらず万人に愛されています。

本市も変えるべきものは変えつつ、市民の皆さまからは変わらず愛される「大仙市」であればと思います。本年もよろしく願っています。

（副委員長 挽野 利恵）

広報広聴常任委員会

委員長 古谷 武美

副委員長 挽野 利恵

委員 戸嶋 貴美子

委員 秩父 博樹

委員 青柳 友哉

委員 小笠原 昌作

委員 石塚 柏

委員 渡邊 秀俊

